

令和元年度

「親になる」講座と乳幼児ふれあい体験

実施報告書



知多市児童センター

令和元年度 「親になる」講座と乳幼児ふれあい体験 実施報告書

知多市児童センター

1. 趣旨

近年、社会の中で核家族化が進み、子どもが成長する過程で自分より小さな子どもや赤ちゃんに接する体験をしないで大人になる人たちが増加しています。結婚をして親になったときに、初めて赤ちゃんを目の前にして、どう接してよいか戸惑う人も少なくありません。

本事業は市内5つの中学校で次代の親になる中学1年生の生徒を対象に、平成23年度に県が作成した愛着形成のための教材「親と子のふれあい」DVDを活用し、「家庭を持つこと」「夫婦が協力して子育てをすること」などの学習をする講座を行い、そのうえで乳幼児親子との生きたふれあいを体験します。

国は中学生と乳幼児がふれあう取り組みを、児童館の取り組みとして位置づけています。市でもこの事業を、子ども・子育て支援事業計画の施策として位置づけ、市内5中学校区で親子ひろばを開催する「NPO法人 地域ぐるみで子育て・子育ての会こころん」と知多市児童センターが協働で実施しました。



2. 目的

中学生	・乳幼児親子とのふれあいにより、子育てに関する「期待」「自覚」「責任」の気持ちを育む。
保護者	・乳幼児と中学生がかかわる姿を通して、我が子への愛情を再確認し、自分の子どもの成長や将来をイメージする。 ・事業に参加することで、親になる次世代の教育を支援するという社会参加、社会貢献に繋がっていることを感じ、保護者自身の子育てに対する評価と自己肯定感を高める。

3. 開催日時・実施場所・参加人数

実施校	開催日	親／子 人数	中学生	ふれあい 体験場所	講座場所
旭南中学校	10/30（水）	25組29人	32人	柔剣道場	教室
中部中学校	11/1（金）	39組45人	32人	武道場	教室
知多中学校	11/6（水）	23組28人	31人	サブアリーナ	教室
八幡中学校	11/7（木）	22組28人	31人	サブアリーナ	教室
東部中学校	11/14（木）	23組25人	30人 (うち1人は 講座のみ参加)	武道場	総合学習室

4. 内容

① 【DVDを使った「親になる」講座】

赤ちゃんに対するイメージ、してみたいことなどを事前に記入してもらい、DVDを視聴しました。赤ちゃんの発達、子育てや親に関することを講座で学びました。



「親になる」講座を受けた中学生の感想（抜粋）

- 僕は赤ちゃんにあまり興味がありませんでしたが、今日の話聞いて少し興味を持つことができました。最初は赤ちゃんはなぜ泣くのか疑問でしたが、DVDを見てわかりました。
- 小さい子の泣き声をうるさいと思った時が何度かあったけれど、DVDを見て「赤ちゃんは泣くのが仕事」ということを学んだので、これからは赤ちゃんが泣いても考え方が変わると思いました。
- DVDを見て、親ってこんなに大変な時や楽しい時があることを改めて感じました。
- DVDを見て、赤ちゃんのあやし方や遊び方がわかりました。
- 私は今回「親になる」講座を受けて、改めて親の大切さを知ることができました。できるならまた来年も受けてみたいと思いました。

赤ちゃんにあまり興味がなく、泣き声を煩わしく思っていた生徒もいますが、「親になる」講座でのDVD視聴を通して、泣くことが自分の意思を伝える赤ちゃんの言葉であり、また仕事であることを知り、感じ方が変化したことがうかがえました。そして「親になる」「子どもを育てる」ことについて、大変そうだけれど、楽しいこともあるだろうと感じたり、自分の「親」に対する思いを新たにしたりした生徒もいたようです。

② 【乳幼児とのふれあい体験】

乳幼児と身近にふれあい、お母さんと話をしました。乳幼児と実際にふれあうことで赤ちゃんの発達や子育てや親に関することについて気づくことができました。



小さくて壊れてしまいそうな大切な命にふれて、考えていたようにはかかわれないもどかしさを感じたり、小さい子が笑ってくれたり手を握ってくれたりすることにホッと安堵して嬉しいと感じたりしました。普段クラスでは見せないようなやわらかい表情や、小さい子を喜ばせようと一生懸命にかかわる姿を見せ、生徒たちの優しい眼差しと小さい子をいとおしむ気持ちがあふれる体験となりました。そのそばには、中学生とふれあう我が子を見守るお父さん、お母さんの姿がありました。「赤ちゃんってかわいい！」「笑ってくれると嬉しい」「お母さんって大変だな」「私の小さいときはどんな子だったのかな？」など、ふれあう中でいろいろな気持ちを持つ体験をし、たくさんの気づきがありました。

ふれあい体験を経験した後の中学生の感想（抜粋）

- 「泣いているときにお母さんに抱っこされると泣き止むのはなぜだろう？」と不思議に思ったのと、「お母さんはすごい」と思いました。赤ちゃんが自分の指をつかんだ時の握力が強くてびっくりしました。
- 親になると世話も大変だなと思ったけれど、かわいいし、笑った顔を見るとこっちも笑顔になれるので、赤ちゃんというのはとてもいいなと思った。将来「こんな親になりたい」というイメージが持てて、不安や心配がやわらいだ。とても楽しみだし、子どもが欲しいと思った。



- お母さんに抱っこしてもらおうと赤ちゃんはとても安心した様子だったので、お母さんは特別な存在なのだと改めて感じ、とてもかっこいいと思いました。私もそんな「かっこいいお母さん」になりたいと思いました。
- お母さんやお父さんが頑張ってくれてくれたおかげで今生きていられるから、親がしてくれたことを赤ちゃんにしてあげられるようにしたいなと思いました。
- この体験だけでもなかなか大変だったのに、これをお母さんたちは一日中しているのはすごいと思った。



- 自分が大好きな人と結婚してその人との子どもがうまれるということはとっても幸せなことだと思っています。でも今は子どもとの生活も楽しみになってきました。赤ちゃんのことが好きになりました。あまり小さい子の世話をしたことがなかったので不安な部分もあったのですが、赤ちゃんのおかげで楽しく接することができました。

保護者から中学生へのメッセージ（抜粋）

- いつもは人見知りで私にベッタリで泣くのですが、泣かずに私から離れて遊ぶことができたのは初めてです。たくさん遊んでくれてありがとう。〇〇ちゃんも大事にかわいがってもらったんだろうな。将来親になったら自分の子はとてもかわいいですよ。
- 初めは緊張していたけれど、後半は二人で遊んでいたのでも嬉しかったです。たくさん遊んでくれてありがとう。いつか〇〇さんも親になる機会があれば自分の子はもっともってかわいいよ。またどこかで会ったら声をかけてもらえると喜ぶと思います。
- 人見知り＆こわがりな息子なので心配していたけれど笑っていたのでびっくりしました。笑顔でふれあってくれたので嬉しかったです。優しく遊んでくれてありがとうございました。
- 最後、手をつないでマラカスを取りに行く姿は、とても仲の良い姉妹のようで素敵でした。



- 目を見て息子の気持ちややりたいことを考えて遊んでくれたので安心して見ていました。歩き出し、いたずらもいっぱい毎日大変なこともあります。仕草の一つ一つや笑顔にパワーをもらえます。〇〇さんのように小さい子に思いやりを持って接することのできる優しい子に育ててほしいです。

- 恥ずかしい年頃だと思っけれど、抱っこしてくれたときに少し戸惑いながらも笑ってくれた表情は嬉しかったし微笑ましかったです。思い出に残ってくれると嬉しいです。
- 子どもが遊ぶペースに合わせて動いてくれたり、危ない時にはさっとおもちゃをどけてくれたり手を出してくれたらして、上手に相手をしてもらえました。いつもと違う時間の中で少しでも学べるのがあってくれたら嬉しいなと思います。家が近くなので会ったら声かけて遊んでやってね。



参加した保護者の感想（抜粋）

- 中学生のふれあい体験は今回が初めてだったのですが、中学生ということもあり、より積極的に遊んでもらえて娘も楽しめたと思います。とても優しく接してもらえたので、将来娘にも「こんな中学生になってもらえたら」と思いました。
- 初めて参加しましたが、こんなに上手に遊んでもらえるとは思わず、とても助かりました。子どもの表情は少し硬かったですが、いつもより楽しそうでした。「私も子どもとこんなふうに遊べばいいんだ」と勉強になりました。



- 少し緊張しながら遊んでいる様子を見て嬉しく思いました。中学生も緊張しているようでしたが少しずつふれあって、私が離れた方が積極的にかかわってくれて嬉しかったです。中学生にとって何かお役に立てれば幸いです。

- 母校が新しくなっていたので見てみたくて来てみました。
- 今日は前回よりも慣れて私と離れて遊ぶ場面も見られました。中学生も緊張しているようでしたが、徐々に距離が縮まった気がしました。とてもいい経験になりました。何かお役に立てているととても嬉しいです。

- 中学生が積極的にかかわろうとする姿が印象的でした。小さな子どもに慣れていないと言いつながらも一生懸命なところはとても感心しました。
- 部屋の中に子どもたちが好きなキャラクターやメッセージが貼ってあるのを見て、楽しみにしてくれていたんだと嬉しくなりました。
- ふれあい体験はとてもよい試みだと思います。クラスだけなのもったいない。みんなやれたらいいですね。どの生徒さんも穏やかで嬉しかったです。子どもがいずれ通う学校なので、より嬉しいです。



担任教諭へのアンケート

① 実施前と実施後において、生徒の皆さんに変化や気づきがありましたら教えてください。

- 小学校でのふれあい体験でうまく乳幼児とふれあえなかった思い出のある子や、身近に乳幼児がいなくてあまり経験のない生徒もおり、最初は不安そうにしていたが、実際に赤ちゃんたちとふれあっていると、それぞれが自分なりに戸惑いつつもいろんなことを試していて、笑顔が多く見られた。やってみてよかったという声も多く聞かれた。
- 自分の幼少期を考え、親の大変さについて話し合っていた。
- 実施前は乳幼児とのふれあいに深い考えを持っていない様子でしたが、実施後は大人が子どもとふれあうことの意味、大切さ、大変さを実感したようでした。
- 実施前や直前は表情が硬かったですが、実施してからは表情も和らぎ、子どもと接する自信がつき、子どもへの興味が高まったと感じました。



② このふれあい体験が生徒の皆さんにとって活かされる経験になりましたか？

- 一人っ子で下に弟や妹がいない子がとても嬉しそうに赤ちゃんとはふれあっていた。普段は見られないような表情で最後まで乳幼児と仲良く話す様子が見られた。このような機会でもないとできなかつた体験だと思う。
- 生徒の普段とは違う表情を見ることができました。人間のもつ優しさについて再認識できました。女子については将来の自分の姿と重ねて会話をしていました。
- ふれあい方だけでなく、子どもを世話する親の大変さについても考えているようでした。また一学期の学習内容である防災に関連させて考えている生徒も多くいました。避難所で小さな子どもがいる家族にどのようなサポートができるかを考えていました。



- 担任クラスの生徒も含め、中学生の多くは将来を思い描くことが苦手です。そんな中、今回のような体験ができたことは「家族を持つこと」のイメージを疑似的に持つことができたと思います。また自分にもこのような時期があったことに気づき、親への感謝をもつことができたと思います。

③ 今後、このふれあい体験を授業で活かすとしたら、どのように活かすことができるとおもいますか？ 今後の授業予定に関係なく、お考えをお聞かせください。

- 家庭科での保育の授業で手作りおもちゃを作ったりするので、そこで一緒に遊んでみるのも楽しいかもしれない。
- 特に道德の授業において「命の大切さ」の項目内容では、体験をもとに考えることができるとおもいます。

- 実際に経験したことによって、生徒たちは母親の気持ち、小さい子どもの考え方を知ることができました。自分は国語の担当なので、物語の登場人物の心情について学ぶ際には、今回の体験を活かして考えさせたいと思いました。
- 総合的な学習の時間の一環として将来を考えるきっかけにしたり、道徳の思いやりや家族愛を考えさせたりできると思います。



5. 中学生のアンケート結果をうけて

「親になる」講座の中と、ふれあい体験を行った後にアンケートに答えてもらい、ふれあい体験を経験する前と後で、気持ちや考え方に変化があったか答えてもらいました。(別紙表1から表3参照)

赤ちゃんへの興味・関心について、経験前に「とてもある」「まあまあある」と76%の生徒が答えています。152名の生徒のうち、乳幼児とふれあったことがない生徒は16名で全体の4%でした。(前年度は176名中40名、全体の23%)乳幼児とふれあったことがない生徒が今年度は少ない印象を受けましたが、小学6年生のときにふれあい体験を経験した生徒が46%いたことも理由のひとつであると思います。

また、「親になる講座」と乳幼児ふれあい体験を行うことについて、実施前から楽しみにしていた生徒が80%、期待が大きかったことがわかります。実施後に「楽しかった」と感じた生徒は95%もいました。身近に乳幼児がいない生徒も多く、実際にふれあってみて、乳幼児のかわいらしさを感じ、楽しい時間を共有したことが、興味・関心をもつこと、深めることにつながったのではないかと思います。ペアになった乳幼児が泣いてしまうとどうしたらいいかわからず不安になることもあったようですが、保護者の助けを借りながら、「じょうずに遊べた」「手を握ってくれたり、体にもたれかかってくれたりして嬉しかった」など、乳幼児と「なんとなく通じ合えた」と感じ、「赤ちゃんが好きになった」「面白かった」「将来のためになった」との答えが多数ありました。

「親になる」ということについてどう考えているかについて(複数回答)、実施前は「わからない」28%、「想像がつかない」67%、「不安・心配」38%、「今は考えられない」40%と、中学1年生の生徒にとって「親になる」ことはまだ遠い将来のことで想像がつかないことがわかりました。しかし、乳幼児とのふれあい体験を実施した後は「わからない」11%、「まだ想像がつかない」40%と減少し、「不安・心配が和らいだ」32%、「楽しみ」58%と答えた生徒がいました。「今はまだ考えられない」生徒も35%いますが、「将来子どもが欲しい」45%、「こんな親になりたいというイメージが持てた」58%と、乳幼児とのふれあい体験が中学生にとって、親になることに対して肯定的なイメージを持つことを促したと考えることができます。



6. まとめ

「親になる」講座を始めた直後は、生徒たちの緊張感や不安感が伝わって来ていましたが、講座の中で自分の経験を話したり、アンケートに記入したりすることで徐々に緊張がほぐれていくのがわかりました。DVD視聴時に赤ちゃんがミルクを飲んだり、笑ったりする場面では、生徒たちの表情も自然にほころび、講座の最後にふれあい遊びや



手遊びの練習をすることは生徒たちに笑顔が見られ、気持ちがほぐれていくのがわかりました。その後に行った乳幼児とのふれあい体験では、ふれあい会場に入室した直後から「かわいい～」と声を発し、早くそばに行きたくて仕方のない様子の生徒が多く見られました。

体験時には、乳幼児と一緒に遊びたい、楽しませてあげたい、喜んでほしいという気持ちが、表情や行動に表れ、どの学校でも温かく和やかな雰囲気ですれあい体験を実施することができました。

参加した保護者は、我が子と中学生がかかわる姿を通して、「自分も親になったばかりの頃は戸惑ったな」と懐かしく思い返し、「こんなふう遊ぶと喜ぶんだ」と新たな気づきがあったようです。また「今回ふれあった中学生のように優しい子に成長してほしいな」と我が子の未来の姿を想像することもできたようでした。

中学生にとっては、乳幼児とふれあって「かわいい」「嬉しい」と感じ、保護者の姿を見て「将来こんな親になりたい」と思った経験が、子育てに対する「期待」や「自覚」につながるのではないかと考えます。

一度の体験では大きな成果は期待できないかもしれませんが、この体験が中学生にとっていい記憶として残り、将来自分の子どもを持ったときに「中学生の時に話を聞いたな」「赤ちゃんは泣くことで自分の思いを伝えてくれるんだ」「泣き止まなくて困っても揺さぶったらいけないんだ」などと思い出し、なにか一つでも活かされるものがあればと思います。

